

「日々の理科」(第1502号) 2018 (H30), -8, 17

## 「初秋の八島湿原(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「八島湿原(やしましつげん)」は、長野県の霧が峰高原の一角にある高層湿原である。8月下旬の林間学校では、この場所で自然観察やスケッチをする班があり、私が引率兼解説員をする。6月に一度下見に行ったのだが、初夏と初秋では咲いている花も、飛んでいるチョウの様子もちがう。やはり直前に自分の目で確かめるのが、自然観察指導の基本だと思ったのだ。



北軽井沢を朝8時頃に出発、白樺湖に10時前に着いた。宿舎で少し追加の打ち合わせをしたあと、「ビーナスラインの人」となって、霧が峰高原に向かった。標高はぐんぐん上がって、1700m以上になる。正面左に見える、山頂に気象レーダードームがあるのが車山。火山地形である霧が峰高原の最高峰だ。



この日は視程が良く、八ヶ岳、南アルプス、北アルプスなどがよく見えた。八ヶ岳の右(南側)の裾野越しには、遠く富士山も見えた。



霧が峰高原の景観の特徴は、標高の割に樹木が少ないことだ。ノルウェーの北部あたりをドライブしている気分になれる。気温も15℃しかなかった。



夏休みも最後とあって、八島湿原の駐車場は混んでいた。10分ほど路肩に並んで、やっと駐車できた。まずビジターセンターで地図や花の一覧を入手した。11時30分からの「ガイドツアー」に参加して、バッチリ説明方法を覚えようと思っていたのだが、残念ながら今年から実施していないという。



仕方なく、自力で探究することにした。ここは「八島湿原園地」と呼ばれる広場。眺望が良くトイレも近くにあるので、昼食をとるのに良さそうだ。